



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099（226）5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



「待降節」の意義

鹿兒島教区司教 中野 裕 明

教区の皆さん、お元気で
しょうか。今回は救い主イ
エスをお迎えする待降節の
意義についてお話ししま
す。それは、クリスマス
単なる行事、またはイベ
ントとして終わらせるこ
ないためです。3点につ
てお話しします。

その1.「待降節」は原語
では「アドベント」と言
い「向こうからやってく
る」という意味です。「時
間の流れの中に、イエス
がやってくる」というこ
です。

時間の流れの中では、2
千年前にすでに来られた
わけですが、復活なさった
イエスは救いの計画を完
なするために再度来臨な
のです。待降節はそのイ
エスに出会うために準備
期間であります。

日本の昔話に「桃太郎」
の話があります。おじい
さんとおばあさんが川の上
から流れてきた桃を切る
と、中から大きな男の子
が出てきました。長じて桃
太郎は鬼退治をしたとい
物語です。ただ桃太郎と
イエスとの違いは、前者
は偶然流れて来たのに対
し、イエスの場合は「神
が定めた時」（ガラテ
ア書4・4参照）に
来たことでした。つ

まり、神は預言者を通して
「イエスの誕生を予告して
いました」ということ
です。

その2.「闇の中を歩む民
は、大いなる光を見、死の
陰の地に住む者の上に、光
が輝いた。あなたは深い喜
びと、大きな楽しみをお
えになり、人々は御前に喜
び祝った。」（イザヤ書
9・1～2）

この句はイエス誕生の約
500年前に書かれた文章
ですが、救い主の誕生を預
言するものとして、待降節
の典礼に用いられていま
す。闇の中を歩んでいる
民、また、死の陰の地に
住む者とは、現代を生き
て私たちのことを指して
いると考えられます。た
だし、この世の栄華を求
め、飽くなき欲望を満た
すために生活している人
々には、無縁のメッセー
ジでしょう。

この世で挫折し、絶望の
中にいる人々、また、高
齢のため、孤独と迫りく
る死に恐怖を感じてい
る人々こそ、救い主を待
ち望む心が高まるはず
です。幼子イエスを腕に
抱き、老シメオンは神を
ほめたたえながら言
いました。「主よ、今こ
そあなたは

お言葉どおり、この僕を安
らかに去らせてください
ます。わたしはこの目
であなたの救いを見たか
らです。」（ルカ2・28
～29）

信仰によって、老シメ
オンはこの幼子は自分
の救い主であると理解
したのでした。

その3. 洗礼者聖ヨハ
ネとイエスの授ける洗
礼の違いについてお
話しします。洗礼者
聖ヨハネは次のよう
に言っています。

「わたしは、悔い改
めのために、あなた
たちに

水で洗礼を授けてい
るが、わたしの後から
くる方は、（中略）聖
霊と火であな
たたちに洗礼を授け
る。」（マタイ3・11
参照）

レオ七右衛門から信仰の核心を学ぶ

今年のレオ七右衛門殉教祭

キリスト教禁教令が敷
かれていた1608年7月
22日に受洗し、わずか
4か月後（11月17日）
に信仰を棄てなかつた
ために斬首刑に処せら
れ「薩摩の殉教者」と
称えられる福者レオ
七右衛門の殉教を称え
、その列聖を祈る「殉
教祭」が

に解説しています。

「この火は、物質的な
火ではなく、聖霊のか
たどりで精錬するよう
に、聖霊は人の心を熱
して清くする。水によ
るヨハネの洗礼は外
なるしにすぎず、それ
自体は内的影響を及ぼ
す力はない。キリスト
の洗礼はキリストの霊
によって内的変化が行
われるしるしである。」
（マタイ3・11脚注参
照）

教会がクリスマスを公
に祝えるようになったの
は、ローマ皇帝コンス
タンチヌスによるミラ
ノ勅令（313

11月16日（日）午後
、川内教会（福岡英
雄神父主任司祭）であ
った。この日のミサに
は徳之島から「聖年の
巡礼」（石田望神父
団長）を兼ねての信者
やベトナムから来てい
る若者など20人を
含む約90人の信徒、
修道者が参列し、中
野司教と4

ありがとう！ メニツヒ神父様

日本での任務を終え10月21日 離日



60年余りの日本での宣
教を終え、テヨドル・メ
ニツヒ神父さまは10月
21日（火）に母国のド
イツに帰国されました
。日本での最後の日々
は老人ホームでの生活
でしたが、いつも心に
あるのは日本への熱い
宣教への思いでした。

ここ鹿兒島教区へ来
た最後のレデンブール
会のドイツ人司祭にな
り、よく「私はラスト・
ボーイになってしま
いました」と、先に旅立
たれた鹿兒島教区で働
いた同僚の司祭や修道
士のことを思い浮かべ
ながら語っていました。

神父さまの働きは鹿
兒島教区以外にもあり
、養成の担当者として
名古屋や長崎の愛宕教
会にもいました。鹿
兒島教区では大口教会
や

年）発布からです。こ
の時からキリスト教は「
邪教」というレッテル
がはがされ、信教の自
由が認められなくな
りました。つまり「自
分の信仰が公に表現で
きる」、それがクリス
トマスの原点であるとい
えます。

降誕祭を端的にクリ
スマス、すなわち「キ
リストのミサ」という
のは示唆的です。さら
に、公に神の子の誕生
を祝うことは自分の神
としての誕生（洗礼）
を祝うことも重なりま
す。赤ちゃんはその存
在だけで周りの人々に
喜びをもたらします。
赤ちゃんは自分



人の司祭、助祭3人と
共に祈りをささげた。

ミサの説教で中野司
教は、レオ七右衛門が
列福されるに至った背
景を説明し、またこの
日の福音（ガラリヤ湖
の嵐を静めるイエス
と狼狽する弟子たち
の様子）から「イエス
のみを見つめることが
大切。これがレオも持
っていた信仰の核

司祭会議

▼教区司祭会

11月11日（火）午前
10時から教区本部で
教区司祭会があり、司
祭15人と助祭1人が
出席した。

報告 レデンブール修
道会鹿兒島修道院長・
盛克志神父（谷山教会
主任）

では何もできませんが、
いのちの輝きを放って
います。

それまでローマ人の
宗教はミトラ教でした。
ミトラ教は太陽を神と
して礼拝していました。
キリスト教を公認した
コンスタンチヌス皇帝
は「これからはキリス
トこそ我々の太陽だ」と
宣言したのでした。自然
界の太陽は、外面から
人間を温めますが、こ
の世を照らす光である
キリストは、わたした
ちの内面から温め希望
を与えます。その希望
はいのちに関するもの
です。（ヨハネ1・1～
5参照）

心と言われるもの。私
たちもこの核心を持
てるようレオの取次ぎ
を願おう」とメッセー
ジを送った。

教区人事

▼鄭法鍾神父（チョン・
ポプチョン）加世田小
教区主任司祭は、瀬留
小教区主任司祭

▼申賢圭神父（シン・ヒョ
ンギョ）瀬留小教区主
任司祭は、加世田小
教区主任司祭

※着任はいずれも12
月28日

▼司祭評議会

11月11日（火）午後
2時から教区本部を主
会場に司祭評議会が開
かれ、「鹿兒島知牧区設
立100周年」について
、また「来年度の司祭
大会の内容」等について
の検討がなされた。

福祉現場の質の向上を目指し

鹿児島教区内カトリック福祉施設協会が研修会

10月30日（木）、31日（金）、鹿児島市照国町にあるザビエル教会で、鹿児島教区内カトリック福祉施設協会主催による研修会が開催された。教区内のカトリック福祉施設から職員31人が集い、信仰に根ざした福祉の原点を見つめ直す学びと分かち合いの時を持った。

本研修は、聖年の祈りの精神に基づき「自然と人間―聖年における祈りと学びの調和（自然と共に生きる人間の役割を再考し、祈りと研修を通じて信仰の深まりと実践の意義を探る）」というテーマのもと、福祉現場の課題に向き合いながら、信仰の深まりと実践の意義を探ることを目的として企画された。

初日は、淑徳大学教授であり、社会福祉法人東京聖ビンセンシオ・ア・パウロ会「愛星保育園」理事長を務める結城康博先生が「福祉現場の現状と未来への提言」と題して講話された。結城先生は、少子高齢化による人材不足、法人統廃合、養成校の定員割れなどの課題を示しながら、「職員ファースト」の理念を強調。職員の自己実現と定着を支える職場づくりが、利用者支援の質を高める基盤であると語られた。

ら、「神の掟に基づく識別」の重要性を語られた。夜は7事業所から職員45人が駆けつけての交流会が盛大に開催され、職員間の親睦が図られた。

2日目（31日）は、社会福祉法人聖嬰会「薩来園」の瀬戸山施設長による実践報告が行われた。シヨファイユの幼きイエズス修道会の精神に基づき、「ありのままの一人ひとりを受け入れ、その存在を尊び、愛する心」を援助の原点とする理念が紹介さ



れ、重度化・高齢化が進む利用者への支援の工夫が共有された。

次に、霧島神父による分かち合い「カトリック施設における『良い仕事』とは何か」が行われた。

神父は、働くことが神に仕える行為であり、献身の形態であることを聖書の言葉を通して語られた。「太陽がなければ私は黙する」という日時計の比喩を用い、仕事の意味は神とい

死と復活を信じることが信仰の礎

死者のためのミサで司教が説教

11月2日（日）午後3時から「死者のためのミサ」が鹿児島市のカトリック唐湊墓地でささげられた。毎年この時期恒例のこのミサ、今年も50人ほどの信徒、修道者が駆けつけ、それぞれの親族や恩人たちのために祈りをささげた。今年のミサを司式したの

は中野裕明司教と泉浩二神父、これに久山元太郎助祭と霧島彬神父が奉仕した。久山助祭による「ヨハネ福音書」朗読後に説教した中野司教は、使徒パウロのローマの教会への手紙から「わたしたちの信仰は復活したキリストを信じるもの。復活がなければわたし

連合壮年黙想会

鹿児島カトリック連合壮年会（永田茂会長）主催の黙想会が10月25日（土）午後、ザビエル教会主聖堂であった。黙想会に出席したのは壮年を中心に約30人で、ザビエル教会主任司祭の小隈憲士神父が指導にあたった。

小隈神父は「教会の心」をテーマに「カトリック教会は何を大事にしているのか」について、第二バチカン公会議からシノドスに至



るまでの社会の動きとそれに対応する教会の変革につ

のための祈りがささげられ司祭墓地を含む墓地に灌水と献香がなされ、亡くなった人々の永遠の安息が願われた。

またこの日は、奄美市の名瀬納骨堂前広場でも死者のためのミサがささげられた。

唐湊墓地清掃に感謝

教区墓地担当

雑草が生え、特に夏になって荒れ果てた様相となっていたカトリック唐湊墓地について、教区の墓地担当として心からお詫び申し上げます。墓地担当としましては現在、業者さんにも相談し、墓地の空き区画やひび割れた通路、土手などに雑草が生い茂らないよう手立てを講じようとしてるところです。しばらくのご猶予をいただければと思います。

その荒れ果てていた墓地の草刈り作業に、その状態に憂慮されたザビエル教会のご夫婦（10月16日）や壮年会の面々15人（10月19日）ほどが取り組んでくださいました。お陰で心配されていたカ

いて解説した。そのうえで、日本の教会、鹿児島教区における取り組みについて、また反省すべき点を指摘し、「信徒の任務は福音の精神を世俗の現実浸透させ、変革させること」と訴え、社会の福音化のために動き出すことの大切さを説いた。

その後は分かち合いのひとときが持たれ、その後のミサで社会の福音化のために活動する誓いを固めた。また壮年たちはその後は懇親会を開き、親睦を深めた。

トリック唐湊墓地での「死者のためのミサ」（11月2日）も予定通りささげることができました。感謝申し上げます。

通常聖年・部分教会での 閉幕ミサ

日時：12月28日（日）17時
場所：カテドラル・ザビエル教会

聖アルフォンソ合唱団 クリスマスコンサート

日時：12月21日（日）14時
場所：谷山教会聖堂
入場：無料
※会場にはできるだけ公共交通機関でおいでください。

による講話「自然と人間―聖書と文化・文明の視点から」があった。中野司教は創世記をもとに、天地創造の秩序と人間の役割を説き、安息日の意義やAI時代の倫理的課題に触れなが

音楽を愛した

村田正男さん帰天

聖心教会所属のアシジの聖フランシスコ・村田正男さんが、10月16日（木）亡くなられました。94歳でした。

正男さんは今は亡き村田実夫（奄美新民謡の草分け的存在）さんの弟でした。若い頃から兄とともに新民謡の普及に尽力されてきました。今もなお島の人々の心をひとつにしてください



ています。
その正男さんは1979

年のご復活に受洗し、教会の聖歌の伴奏者として80歳まで、長きにわたり奉仕してくださいました。その後、伴奏は長男の孝史さんに引き継がれています。正男さんは教区50周年の際には「功労者」として表彰されています。

正男さんが1999年8月に作曲した「母をたたえる歌」を紹介して、その永遠の安息をお祈りしたいと思います。（写真は功労者として糸永司教から感謝状を受け取る村田さん）

母をたたえる歌

「母のやさしい あるたかむねにいだかれすくすくとのびた てとあしこのからだ

母のおひさま おつきさま 母はおひさま おつきさま わたしたちの いのちのちからです

ふかい大地にすみわたる母のひとみに みちびかれきよく育ったところ

母はおひさま おつきさま わたしたちの ひかりです」
（報告 名瀬聖心教会）

聖年の巡礼で宮崎の教会訪問

玉里教会 園田 健太

私たち玉里教会は聖年の巡礼で宮崎県の3教会を巡ることにしました。

9月23日（火）の秋分の日に日帰りで予定をし準備を始めました。参加者は小学生から年配の方と幅広く26人での巡礼となりました。

泉神父様がミサの司式をし、宮崎教会の皆さんと一緒にミサにあずかることができました。

教会堂入り口にはスタンブ台と希望の巡礼帳（見事な！）と素敵な絵や祈りのしおり等が準備されていました。

8時30分に玉里教会を出発し11時ごろ大分教区巡礼指定教会の宮崎教会に到着しましたが、ここは主任司祭の泉神父様には思い出深い地で、神父様が南九州小神学院の院長として過ごした場所とのことでした。

そのあと、信徒会館に場所を移して宮崎教会の信徒さん方と一緒に昼食をいただきました。また、ご婦人が手作りのお吸い物まで用意くださり、美味しく感謝しながらいただきました。信徒会長さん、信徒の皆様のおもてなしに巡礼ならではの心豊かな気持ちになりました。



宮崎教会聖堂で記念撮影

特筆すべきは、宮崎教会には中型以上のバスが入れずに、教会から離れた場所からの徒歩での移動となったことです。そのため高齢者の方々の移動には不安があったのですが、以前玉里教会にいらっしゃった千田さんへ事前に相談したところ、車で迎えにきますと快諾いただきました。

高齡の方のために車椅子を2台準備していました。が、なんと3台もの車で迎

えにきてくださいました。少し雨まじりのお天気でしたので大変助かりました。感謝！

昼食後、南宮崎教会へ移動しました。そこには以前玉里教会に、主任司祭がお休みの時に来てくださった、鹿屋教会の主任司祭を務められたザベリオ宣教会のヴィゴロ・マルコ神父様がおられ、神父様と信徒の方が迎えてくださいました。

神父様から南宮崎教会の概要をお話いただきました。私も含め久々にお会いでき嬉しさと実り多い時間となりました。次は都城教会へ移動しザベリオ宣教会のマストロット・セベリノ神父様と多くの信徒の皆さんが迎えてくださいます。

奉献生活者と共にささげるミサのご案内

日時：2026年1月31日（土）14時～
場所：カテドラル・ザビエル教会
司 式：中野裕明司教様、小隈憲士神父様

「聖年」希望の巡礼者・平和への道、の1年間「霊による分かち合い」という新しい言葉を生きながら歩んで参りました。これからの日々もお互いに生きて参りましょう。

鹿児島教区では、毎年2月2日（主の奉献の祝日）の前後に、教区内の奉献生活者が集まって召命の恵みをに感謝しながら、新たな召命の恵みを願い祈っております。新型コロナ、インフルエンザもまだ収まってはおりませんが、教区の皆さま方の参加を得て、私たち奉献生活者のために祈って頂き、また鹿児島教区の上に新たに司祭・修道者の召命の恵みが豊かに与えられますよう共に祈りたいと思います。久しぶりに信徒の皆さま方にお会いして、交わりを深めることが出来ればと願っております。お友だちを誘ってぜひお出かけください。多くの皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

鹿児島教区修道女連盟一同

用意いただきました。温かいおもてなしに感激しながら外に出ると雨もあがっていました。

様と不慣れな私の引率を温かく励ましてくれた玉里教会の共同体の仲間の皆さん、そして「宮崎に行くぞ」と力強く宣言してくれた泉神父様に感謝しかありません。ありがとうございました。最後になりますが、希望の巡礼の恵みを願いながら、希望は欺かないと強く信じて日々を過ごしていきたいと思ひます。

イグナチオの霊躁③⑩

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥



よろこびにあふれて (overjoyed)

「一度観想の状態に入ると、すべての場所が祈りの場となりますよ」という指導シスターの言葉通り、それからはすべての場所が観想の場となりました。次の「博士たちの訪問」の観想

は、庭の綺麗でもないベンチに座りながらしたように覚えていきます。

どこかははつきりしませんが「東の国」から、わたしは3人の博士たちと旅を始めました。3人の王様のとも呼ばれることもあるので、3人ともお金持ちでした。豪華な服をまとい、

金、銀、財宝、たくさんのお金を携えてラクダに乗って旅をしていました。わたしはというと汚らしいボロギレをまとい裸足で、歩いて彼らと旅をしていました。ヘロデの元へ立ち寄り、星に導かれながら彼らは大喜びで旅を続けま

待っていました。三人がそれぞれの贈り物を渡すと、マリア様は赤ちゃんとその赤ちゃんを抱いて大喜びしていました。そしてわたしは番ですが、何も贈り物を持っていないかつたので立ち尽くしている

を終わりました。博士たちのように大喜びできなかったことにがっかりしながら、その内容を指導シスターに話しました。「大喜びできなかった自分ながら、自分の心の奥底から喜びが込み上げてきているのが分かりました。シスターもそれに気付き、もう一度同じ箇所を観想するように言われ、もう一度することになりました。

会 と 催 し 12月

2日（火）コンベンツス・教区本部・10時
▼みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
3日（水）日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭
▼中野裕明司教霊名（聖フランシスコ・ザビエル）

▼小川靖忠神父叙階記念（1972年）
▼中野アカデミー・教区本部・13時30分
6日（土）貴島丈弥神父叙階記念（2015年）
7日（日）待降節第2主日
▼谷山教会堅信式・9時

▼宣教地召命促進の日（献金）
▼ヴィデンマン神父命日（2006年）
8日（月）無原罪の聖母マリア
9日（火）牧師神父の会・教区本部・14時
10日（水）糸永真一司教命日（2016年）

▼中野アカデミー・教区本部・13時30分
13日（土）タリタクム・教区本部・10時
14日（日）待降節第3主日
▼母間教会堅信式

15日（月）木陰実神父命日（2019年）
17日（水）中野アカデミー・教区本部・13時30分
19日（金）有馬信茂神父命日（2007年）
21日（日）待降節第4主日
▼鹿屋教会堅信式・10時

▼ミイベルガ神父命日（2022年）
25日（木）主の降誕
26日（金）最初の殉教者聖ステファノ
27日（土）聖ヨハネ使徒福音記者

▼寝占敦之神父霊名（使徒ヨハネ）
▼末吉卓也神父霊名（使徒ヨハネ）
▼山口好信神父霊名（聖ヨハネ）
28日（日）聖家族
▼「通常聖年 部分教会での閉幕ミサ」・ザビエル教会・17時

▼オリブの会・教区本部・14時
29日（月）霧島彬神父叙階記念（2018年）
30日（火）マルケット神父命日（2020年）

【司教日程】3日中野アカデミー、7日谷山教会、10日中野アカデミー、14日母間教会、17日中野アカデミー、21日鹿屋教会

祈りの意向
【教皇の意向】紛争地域のキリスト者
【日本の教会】召命

お知らせ

教区本部事務局では年末年始休業を12月29日（月）～1月4日（日）とさせていただきます。ご了承ください。
鹿児島教区本部事務局

人々を教会に招くクリスマス

故・糸永真一司教のブログから

クリスマス・シーズンを迎えて、わたしは今、長崎・八幡町教会時代を思い出している。

若かったとはいえ、クリスマスは重労働の2日間だった。24日の朝から青年たちの協力を得て教会の飾りつけに汗を流し、夕方7時から2時間は「クリスマス・レセプション」、そして11時から真夜中のミサ、ミサ後は明け方まで高校生や青年たちのお付き合ひ、25日は早朝のミサと日中のクリスマス・ミサ、そして午後2時から「クリスマス子どもの集い」と続いた。でも、あの疲れは快い疲れだった。

＝中略＝

なかなかしやれた楽しいレセプションは、クリスマスにおける教会のあり方について大きなヒントを与えるものだった。

つまり、戦後、多くの日本人はキリスト教に対して戦前のような嫌悪感を持たず、少なくともクリスマスにはでたら教会に行ってみたく思っている。しかし、クリスマス（キリストのミサ）の名のとおり、ク

リスマスの中心はミサであるが、洗礼を受けていない者は「聖体の典礼」に参加する資格がなく、その前の「ことばの典礼」には参加できるので、印象的なキャンドル・サービスの形でこれを行おうという趣向である。この思いは、わたしが主任司祭になったとき、その「実現の時」を迎えたのだ。

①大人のためのクリスマス・レセプション

これは、高校生以上の大人の所属信者たちが各自個々に信者ではない友だちを教会に招待して行う集いで、J・O・Cのクリスマス・レセプションに準じて行った。

まず2階の聖堂で第1部「ことばの祭儀」。

各自灯したローソクを手にクリスマス聖歌と一緒に歌い、キリストご降誕の聖書朗読のあと講話を聴き、黙想して聖歌を歌う。第2部は1階の幼稚園ホールでのパーティーで、信者たちの接待を受けながら、毎年変わるかなり派手な余興を楽しみ、最後に持ち寄ったささやかなクリスマス・プ

京泊教会跡地清掃

連合壮年会

死者のためのミサを前に唐湊墓地の清掃に汗を流してくれた壮年たちが、「福者レオ七右衛門殉教祭」を前にレオが受洗した京泊教会の跡地の清掃にも尽力してくれた。



清掃作業してくれた壮年たち

レゼントを交換して散会するのである。もし希望する人があれば、もちろん真夜中のミサにもオプザーバー参加が認められ、実際に参加する人たちがいた。

日ごろから布教のために何かしたいと望んでいた信者たちはこの催しに積極的に協力した。

250人から300人に達したお客さんで聖堂も幼稚園ホールも満杯であったが、荘厳な雰囲気のカン

ドル・サービスでは神の御子の誕生の神秘に静かに浸り、レセプションでは和氣満々のうちにクリスマス

来年も」と言い交わして散会したものだ。

わたしは大人の信者たちが、機会さえ与えられれば、喜んで、また積極的に布教に協力する姿に大いに満足した。

②クリスマス子供集い

これは信者の小・中学生各自がカトリックではない友だちを教会に招き、クリスマス

中学生たちは主宰する教会側を代表してホスト、ホステスに徹し、司会、お茶組み、サンタクロース役など精力的にこなした。

また、催し全体が規律よく進行し、教会らしい、そしてクリスマスらしい和やかで敬虔な雰囲気

少なからぬ市民が見学に訪れることであろう。だが、もう一歩進めて、個々の信者が、自分の友だちをすすんで教会に案内し、多くの市民が単なる無名の参観者としてではなく、名指しして招かれた客として、主体的にクリスマス

的にクリスマスの祝いに参加できる企画があれば、教会を中心とした交わりの輪を一拳に広げる機会になるのではないかと、今も思っている。

（2008年12月25日）

CHỜ ĐỢI

Mình hứa chờ bạn đi Lễ, chờ bạn đi siêu thị...Mình lái xe đến , bạn đã đúng chờ sẵn. Mình rất vui, cảm động và rất trân trọng bạn.

Bạn hứa với con cái đi sang Nhật làm 3 năm rồi về. Mỗi tôi gọi điện thăm con, câu đầu tiên nó luôn hỏi : “Khi nào bố/mẹ mới về?” Nó chờ và mong mỗi cái ngày được chạm vào người bạn, được ngửi thấy mùi của bạn...chứ không chỉ là hình ảnh trên điện thoại.

Bố Mẹ tiễn bạn ra sân bay đi Nhật làm việc, là từng ngày lo lắng, cầu nguyện cho bạn được mạnh khỏe, công việc được thuận lợi, luôn gặp được người tốt...và nhất là tìm được Nhà thờ Công giáo, mong bạn thường xuyên được đi Lễ, siêng năng đọc kinh sớm tối...đừng bỏ Chúa,mong bạn được an toàn đến ngày trở về nhà.

Mỗi khi bạn và tôi lỗi phạm, Chúa lại hỏi hộp chờ đợi, mong chúng mình đừng trốn Ngài, nhưng mau đến gặp Ngài chỉ với 1 câu “con xin lỗi, con sai rồi”. Ngài vui, rất vui khi được trao ban cho bạn và tôi sự tha thứ.

Thời tiết đã vào đông, bạn và tôi bước vào Mùa vọng thứ...Thời gian mà Giáo Hội nhắc chúng mình sống sự CHỜ ĐỢI trong HY VỌNG, nhắc nhở mình đang là người lữ hành bước về nhà Cha. Chúa đặt đê chúng mình vào thế giới này để chúng mình chuẩn bị hành trang cho cuộc sống vĩnh cửu mai sau, chuẩn bị cho ngày Chúa đến rước chúng mình đi. Ngài CHỜ ĐỢI cái ngày được nắm tay bạn, ôm siết chặt bạn vào lòng, cái ngày bạn sẽ ở bên Ngài mãi mãi.

Vậy bạn và tôi có chờ đợi, mong mỗi ngày ấy không? Với tâm tình như thế nào? Đặc biệt trong Mùa vọng của Năm Thánh 2025 này?

Sr. Maria Goretti Hoàng Oanh.



要理

空気を吹き込んで音を出すものが管楽器と言われています。

管楽器は吹き

込まれた空気が通り抜けるように内部は空洞になっています。そしてそれぞれの音を出すために音階に応じた穴がいくつか開いています。

以前お話したように人間は

神様のかたどりととして、即ち、神様がご自分の命の息を吹き込むために人間を空っぽなものとして創られました（創世記1・26 ab、2・7参照）。

そして異なる音を出すための穴がいくつか空いていると言えます。

自分に穴が開いていると思うとそれ

が自分の欠点であると思われるがちです。しかしその穴があるからこそ違う音が出せ、他者が出す音と響き合わせることができるのです。

忘れてはならないことはその穴を開けたり開いたりすることによって出る音が正しい音程であるかどうかという

神様に息を吹き込まれる人間

ことです。

管楽器の演奏家は自分が出す一音一音の正確さに神経を研ぎ澄まします。

これと同じように私たちは神様をチューナーとして神様やイエス様から受けた聖霊を正しく働かせているかどうかを祈りや黙想を通じて確認することが

必要となります。

それは自分の言葉や行いによって他者と正しい関わりをもっているかどうかの試金石ともなるでしょう。

人間を管楽器として考えるのなら私たちの生涯とは神の国の完成という壮大な交響曲の中で神様から与えられたパートを担っていることであると

言えるかも知れません。

ですから絶えず聖霊が私たちに働いていることを意識し、その働きを通じて音を出し、そして他者が出す音と綺麗に響き合わせられているかを考えることが必要になるでしょう。

